

世界経済の潮流 2012年

< 2012年上半期 世界経済報告 >

欧州政府債務危機を巡る緊張が続く世界経済

(概要)

2012年6月

内閣府
経済財政分析・海外担当

ねらい

- 世界経済は、2011年以降、減速。欧州政府債務危機を巡る緊張が続く。
 - ヨーロッパ：ユーロ圏の2011年10-12月期実質GDP成長率は世界金融危機以来のマイナス。欧州政府債務危機の影響で需要が低迷し、実体経済を下押し。
 - アジア：景気の拡大/回復テンポが鈍化。ユーロ圏の需要低迷により2011年末にかけて輸出が鈍化。
 - アメリカ：雇用者数の増加や消費の持ち直しといった動きがみられ、景気は緩やかに回復。
- 本「世界経済の潮流」では、欧州政府債務危機が世界経済に与える影響を分析するとともに、各国・地域の景気の現状や構造的問題を掘り下げ、今後の見通しについて考察。

第1章 欧州政府債務危機を巡る緊張が続く世界経済

第1節 世界経済の概観

第2節 欧州政府債務危機の世界経済への影響

第3節 世界経済の見通しとリスク

第2章 各国・地域の動向

第1節 ヨーロッパ経済

第2節 アジア経済

第3節 アメリカ経済

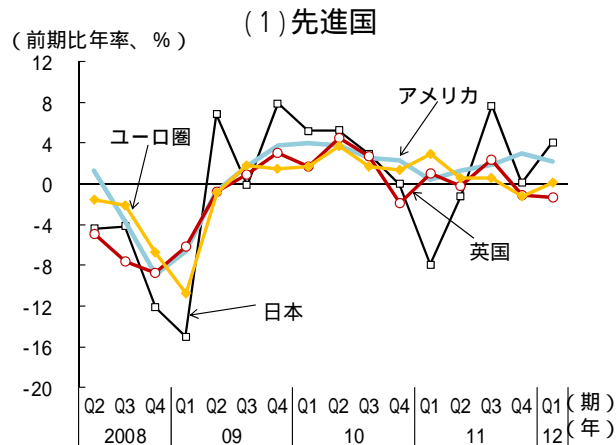
第1章 欧州政府債務危機を巡る緊張が続く世界経済 ～減速局面からの脱却を模索する世界経済～

●世界経済は2011年半ばから回復のペースが鈍化。(第1図)

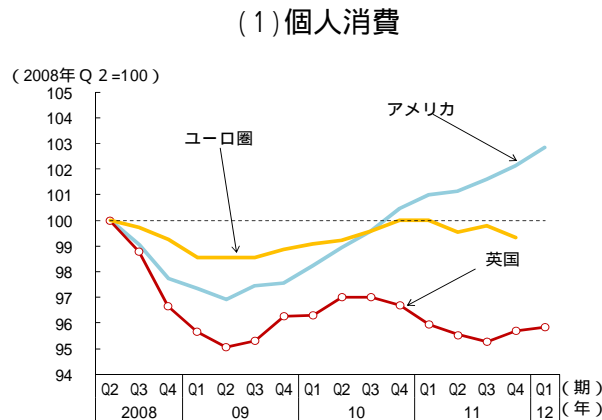
➤先進国:回復テンポにばらつき。政府債務危機の影響に揺れるヨーロッパと緩やかな回復をみせるアメリカ。(第2図)

➤新興国:拡大/回復テンポが緩やかに。背景としてヨーロッパ向け輸出の鈍化や金融引締めによる消費・投資の鈍化。(第3図)

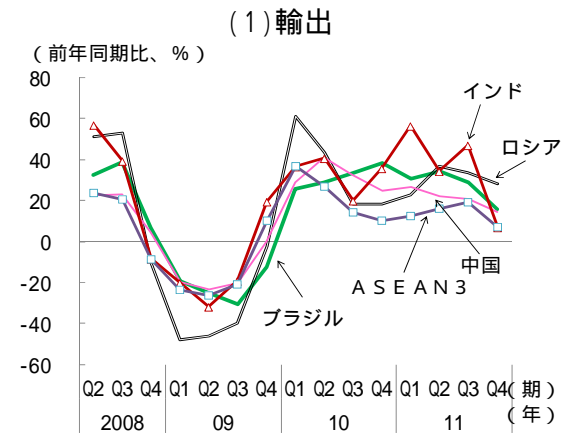
第1図 主要各国の実質GDP成長率



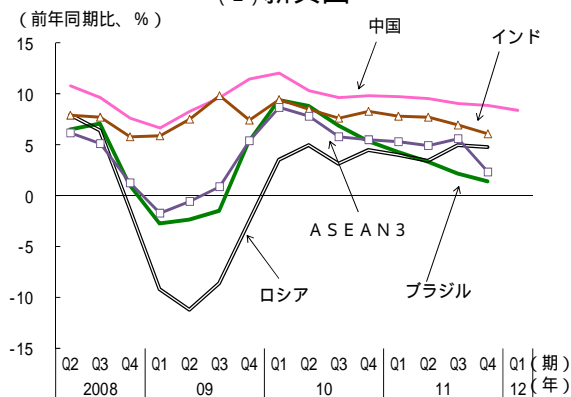
第2図 先進国の家計部門



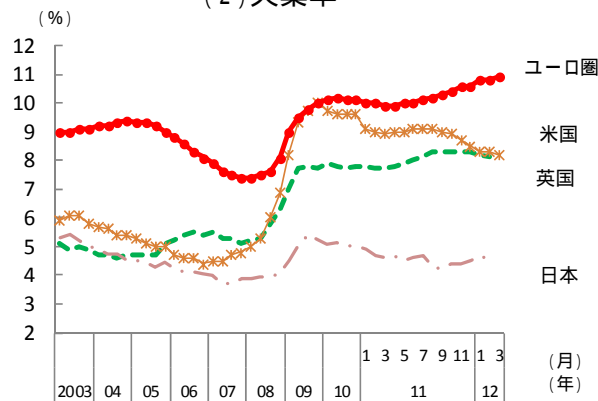
第3図 新興国の動向



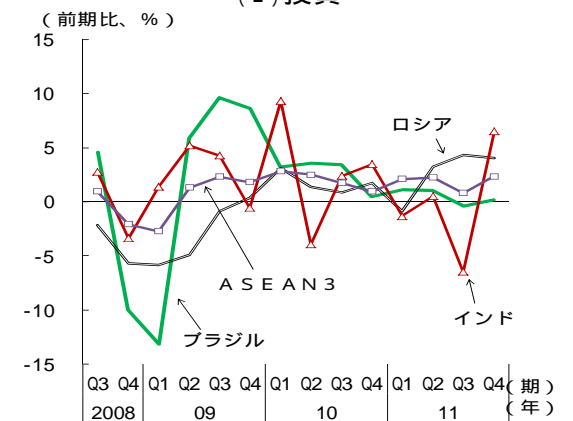
(2)新興国



(2)失業率



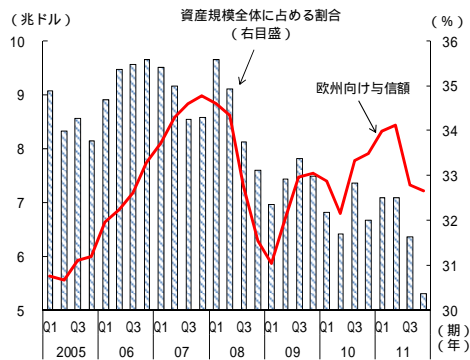
(2)投資



第1章 欧州政府債務危機を巡る緊張が続く世界経済 ～欧州政府債務危機の世界経済への影響：金融システム～

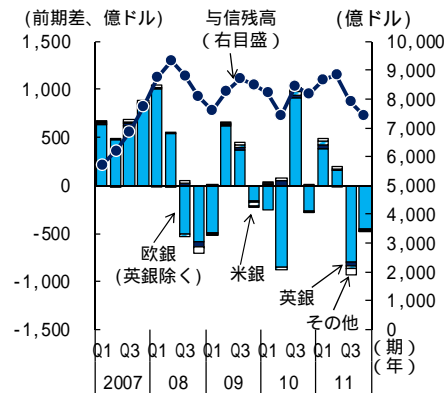
- 2011年後半にかけてユーロ圏銀行の資金調達環境が急速に悪化。貸出スタンスが厳格化、内外の与信を圧縮。域外与信では中東欧、アジア、中南米向けが減少。(第4～6図)
- ユーロ圏銀行の存在感が特に大きい中東欧と比べ、国外借入への依存度が低いアジアや中南米ではユーロ圏銀行の与信圧縮の影響は限定的だった可能性。資金調達環境が悪化するも借入需要も低迷しており实体经济への程度制約となったかは不明確。(第7、8図)

第4図 投資信託からの資金流出

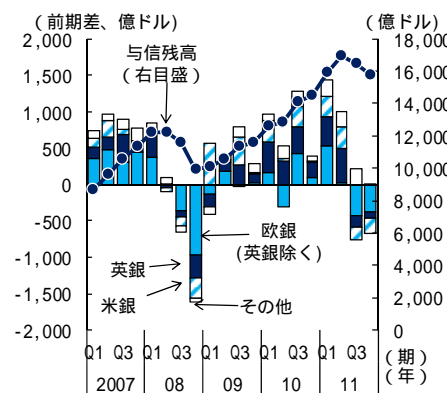


第6図 中東欧、アジア、中南米に対する与信の変化

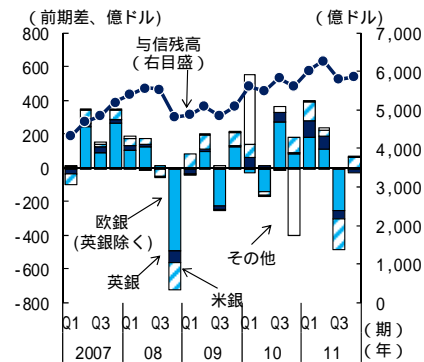
(1) 中東欧向け



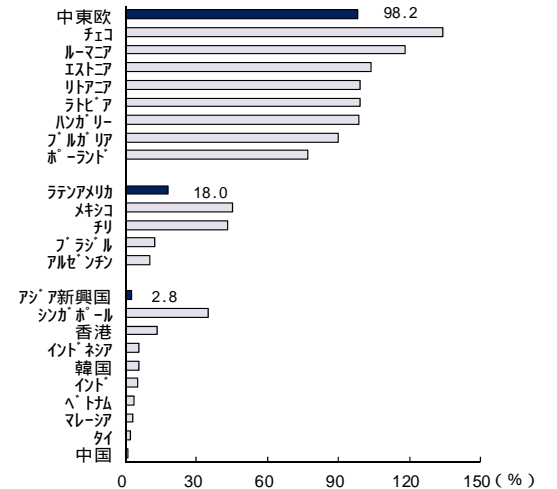
(2) アジア向け



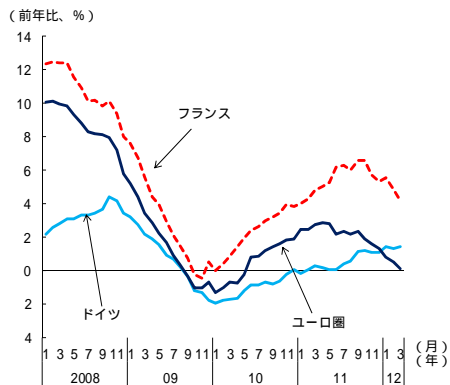
(3) 中南米向け



第7図 ユーロ圏銀行からの与信 (国内銀行による与信残高に対する比率)

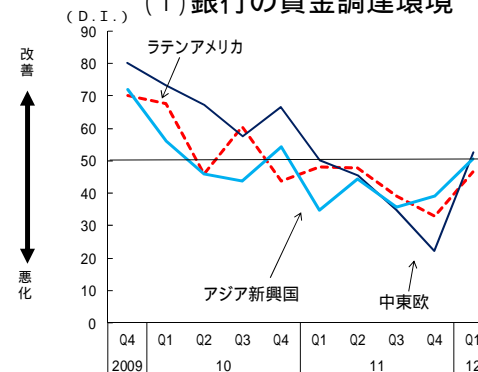


第5図 ユーロ圏銀行の域内向け貸出

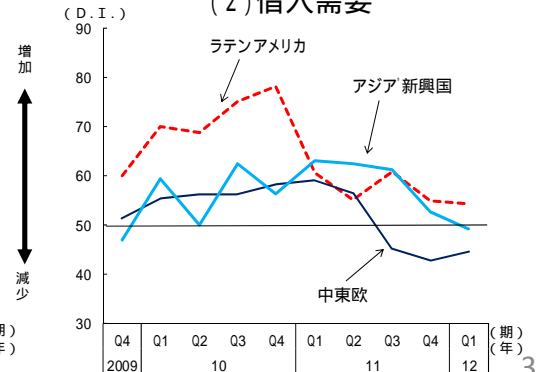


第8図 中東欧、アジア、中南米の金融環境

(1) 銀行の資金調達環境



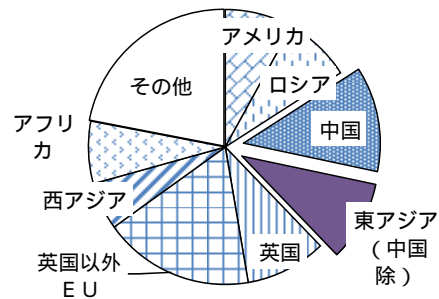
(2) 借入需要



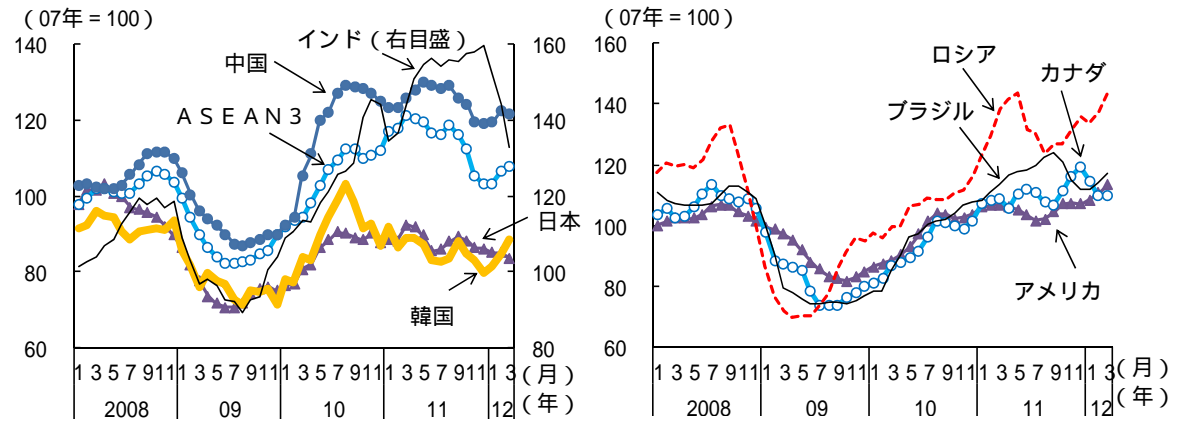
第1章 欧州政府債務危機を巡る緊張が続く世界経済 ～欧州政府債務危機の世界経済への影響：貿易～

- ユーロ圏の内需低迷により、ユーロ圏向け輸出シェアの大きい中国などアジア諸国の輸出が2011年後半に特に減少。輸出依存度の高いアジア諸国の成長を下押し。(第9、10図)
- 商品別には鉱物性燃料以外の品目が総じて減少。電気製品などの減少が中国・韓国の輸出減少の要因に。(第11、12図)

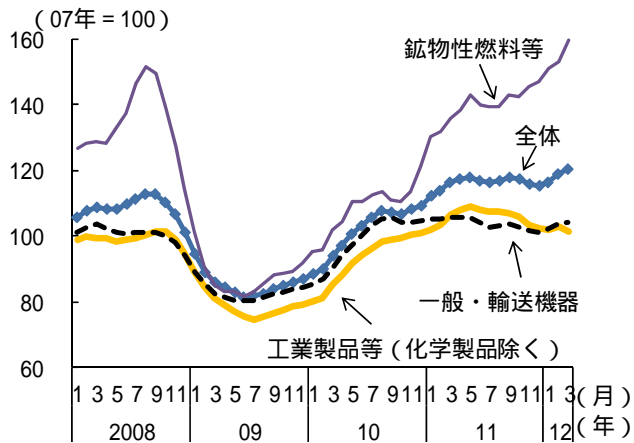
第9図 ユーロ圏向け輸出シェア



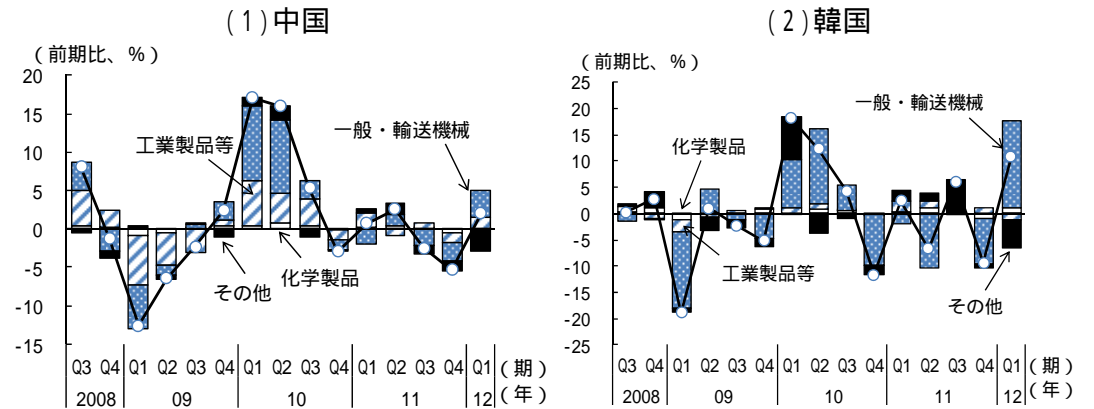
第10図 国・地域別ユーロ圏向け輸出(金額(ユーロ建)ベース)



第11図 商品別ユーロ圏向け輸出(金額(ユーロ建)ベース)

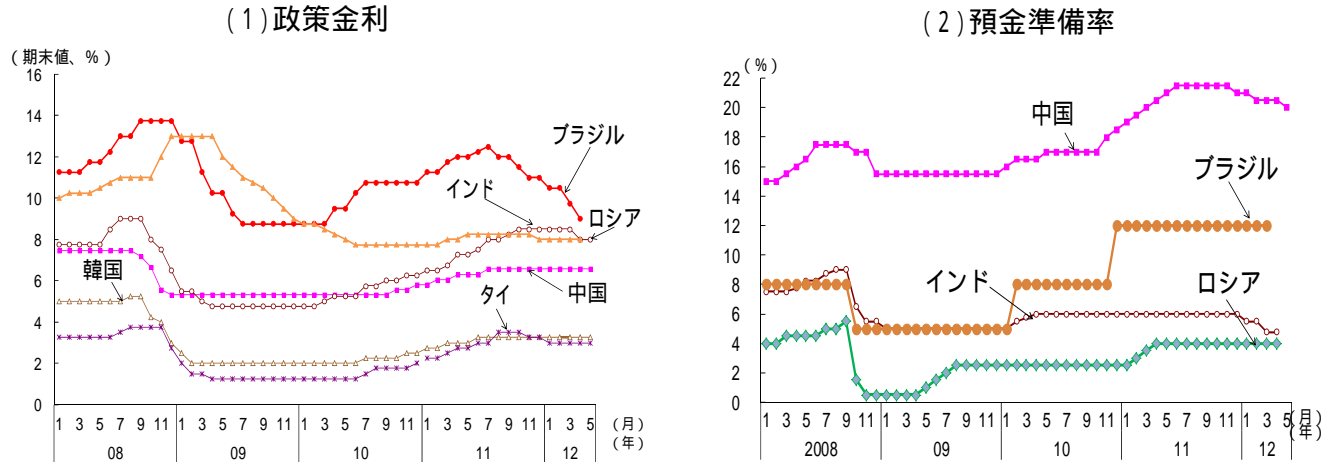


第12図 中国・韓国のヨーロッパ向け輸出



- 新興国：2010年半ばより相次いで引き締められてきたが、2011年半ば以降、緩和に転換。（第13図）
- 先進国：緩和継続。ECBとBOEは非伝統的政策を強化し、バランスシートが拡大。（第14図）

第13図 新興国の金融政策動向



第14図 先進国の金融政策動向

